

## 過去の地震から知る、未来の備え ～助け出すための備え

名古屋大学災害対策室 木村玲欧

未来の地震にそなえるためには、過去の地震を知ることが大切。1945年にこの地域で2,306人の死者を出した「三河地震」から、未来の備えにつながる教訓を考えていきます。

■父親と弟が家の下敷きになってしまった。「おとつぁんを助けとくれ！」と叫んだら、近くに住んでいたおじさんが来てくれて、道具を持って縁の下に入り、2人を救出してくれた(幡豆郡吉田村(幡豆郡吉良町)神谷みつえさん)

「おとつぁんを助けとくれ！」って叫んだら、父親の弟さんが走ってきた。倒れた家の縁の下へ入って行って、縁束(縁先を支えるため縁桁の下に立つ束)を大きな木づちのようなもので「ポン」とたたいてね。ほいで縁束が抜けたもんだで、縁が下がったもんだ。ほいでおとつぁんも楽になっただね。

私は先に助けだされた弟を一生懸命抱きかかえて「しっかりせりんよ、しっかりせりんよ」って言っていたのを覚えとるね。



絵 阪野智啓

生き埋めになった人・閉じこめられた人を救助するポイントは「素手でしか救助できない事態にはしない」というものです。つぶれた鉄筋コンクリートの建物からの救出はプロでも難しいと言われていますが、木造家屋ならば、備えや訓練をしっかりとっておけば素人でも救出が可能です。

家庭内や「向こう3軒両隣」の代表的な備えは、1)軍手、2)山のこぎり(柱や角材が切れるもの。図工用の目の細かい両刃のこぎりは勧めない)、3)シャベル(屋根や柱を動かす「てこ」にするため1m程度の丈夫なもの)、4)平バール(扉をこじ開けたり、屋根・柱を動かすため60cm以上の大きなもの)、5)ジャッキ、6)ロープ(人をくぐる、家具を引っ張って運ぶため数mのもの)などです。これらは、家の中ではなく、家が潰れても取り出せる庭の物置や屋外駐車場などに保管してください。

地域での備えも必要です。停電のために「可搬型の自家発電機や投光器」、物を切断するための「チェーンソー」、物を持ち上げるための「油圧ジャッキ」、組立式はしご、折りたたみリヤカー、折りたたみ担架、消火器、消防ポンプなどを地域の防災倉庫に備えたり、ユンボを所有する事業所などと、災害時の使用協定を事前に結んでおくことも重要な救助・救出対策です。

しかし、これで安心するのは早計です。みなさんは、バールの使い方、ロープの正しい結び方、折りたたみ担架・リヤカーの組み立て方、救助・応急手当の方法をご存じですか。どんなに素晴らしい道具も、使えなければ宝の持ち腐れです。年に1回でもよいので、地域の防災訓練を通して、防災倉庫の管理方法や道具の使用の確認・見直しをぜひお願いします。また、地元消防署や小中学校・社協・医療機関などと連携して、地域全体の消火・避難訓練、救命講習、炊き出し訓練、避難所運営訓練を行う仕組みを作ることができれば、地域の防災力はさらに高まるはずです。